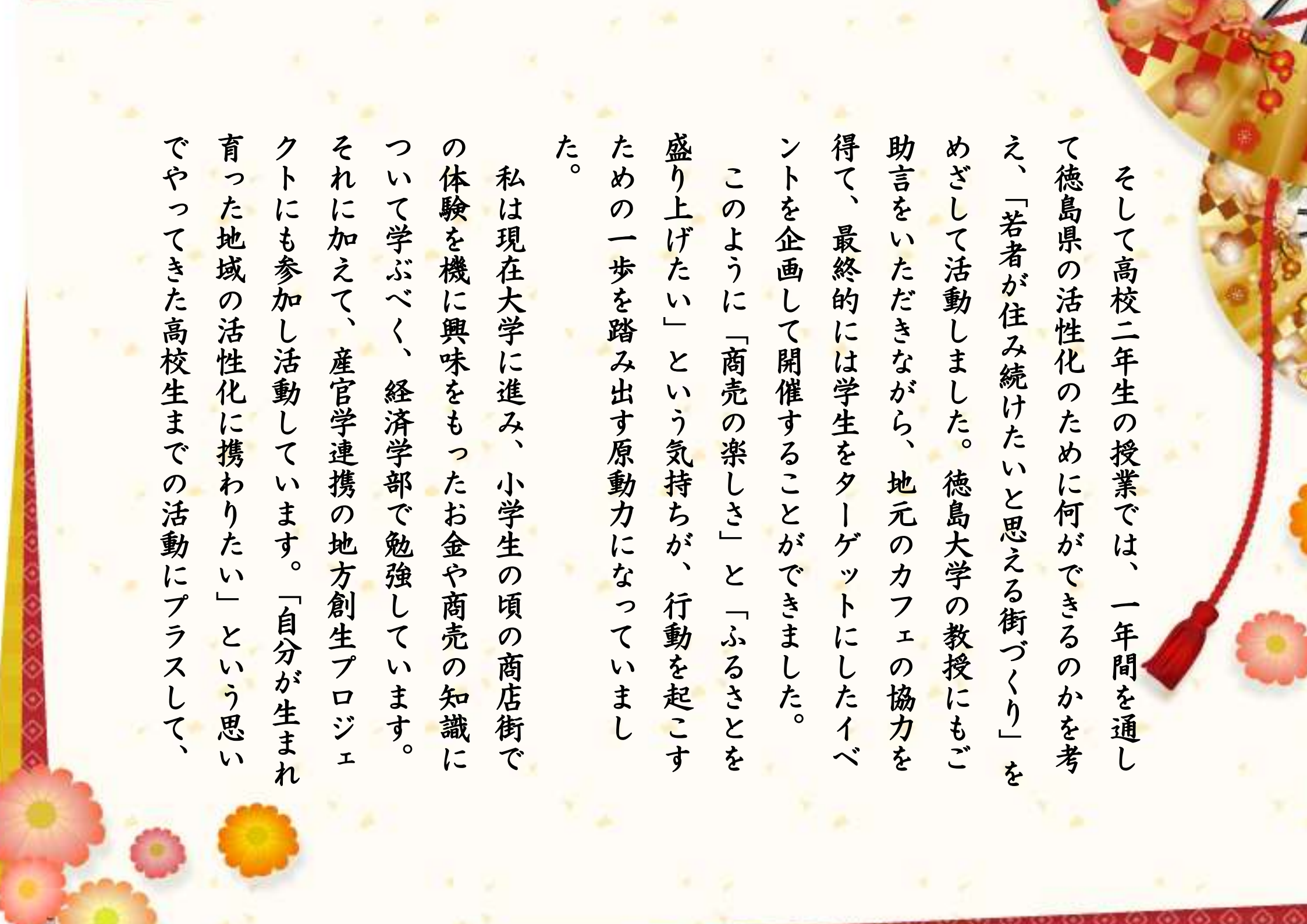




「私をつくってくれた場所」

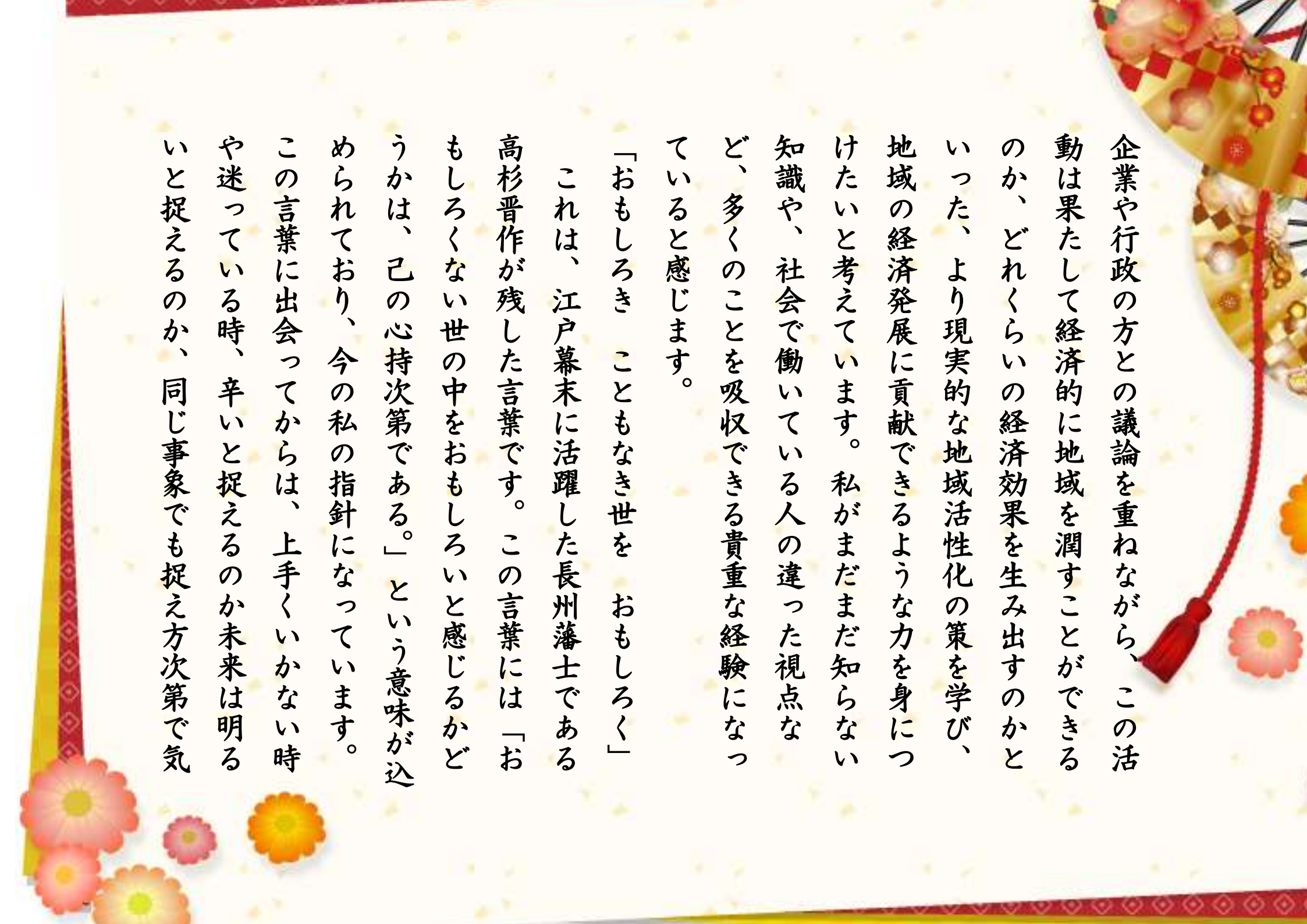
私は鳴門市の商店街の近くで生まれ、育ちました。小さい頃から家族だけでなく地域の人たちにも愛され、自分が住んでいるこの場所が大好きになっていました。私が小学校の高学年になった時、商店街の方が企画してくださったイベントで、実際にお店を出す機会がありました。この経験を通して、来てくれたお客さんが笑顔になることや、チームの友達と一緒に考えて形にしていくことが、楽しいだけではなく、自分にとっての喜びになるということに気づきました。たくさんの方の協力でこのような経験をさせてもらったことに感謝すると同時に、楽しそうに活動していた商店街の方の姿から、私もこんな風に街を盛り上げたいなど考えるようになりました。



そして高校二年生の授業では、一年間を通して徳島県の活性化のために何ができるのかを考え、「若者が住み続けたいと思える街づくり」をめざして活動しました。徳島大学の教授にもご助言をいただきながら、地元のカフェの協力を得て、最終的には学生をターゲットにしたイベントを企画して開催することができました。

このように「商売の楽しさ」と「ふるさとを盛り上げたい」という気持ちがあり、行動を起こすための一歩を踏み出す原動力になっていました。

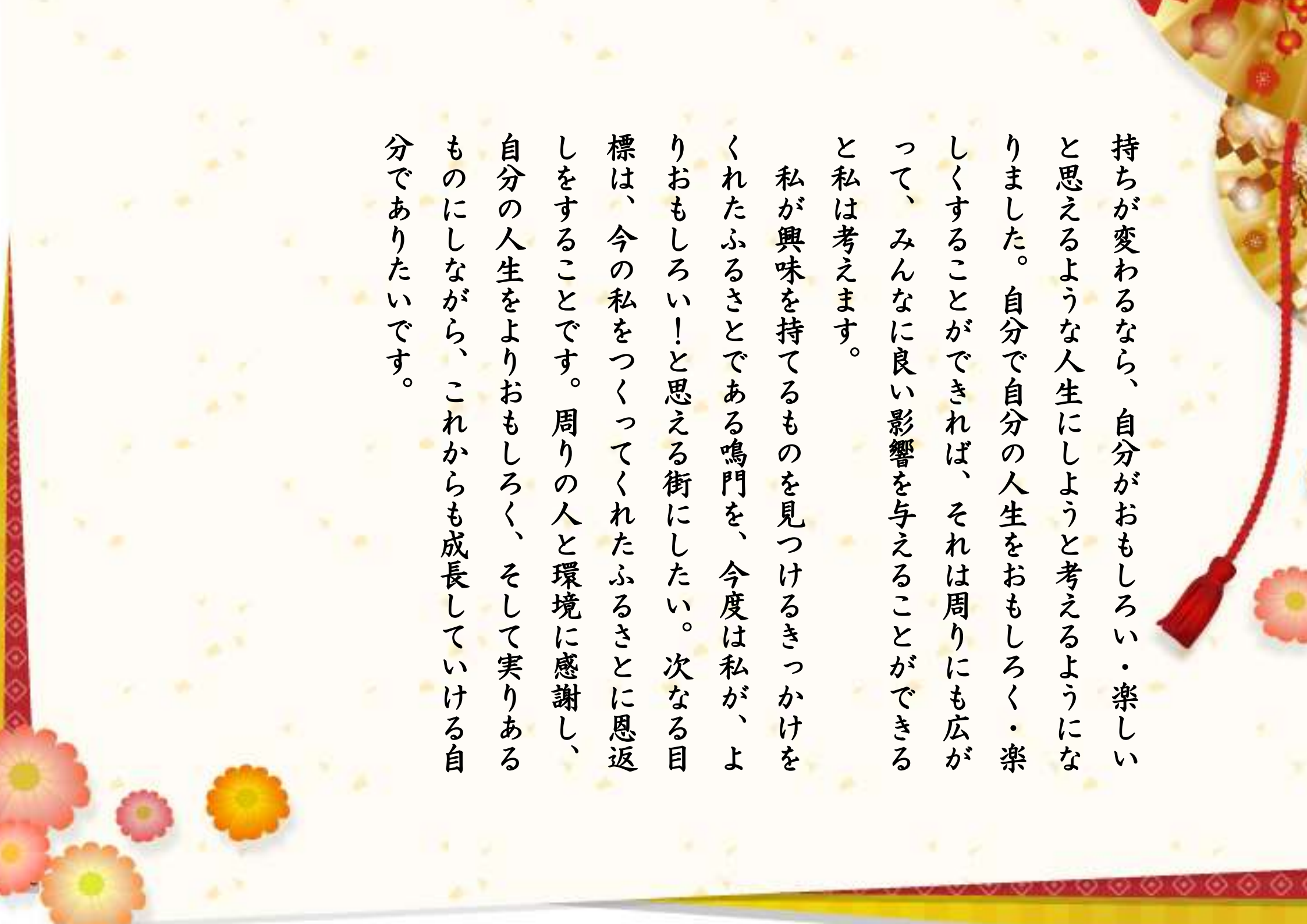
私は現在大学に進み、小学生の頃の商店街での体験を機に興味をもったお金や商売の知識について学ぶべく、経済学部で勉強しています。それに加えて、産官学連携の地方創生プロジェクトにも参加し活動しています。「自分が生まれ育った地域の活性化に携わりたい」という思いでやってきた高校生までの活動にプラスして、



企業や行政の方との議論を重ねながら、この活動は果たして経済的に地域を潤すことができるのか、どれくらいの経済効果を生み出すのかといった、より現実的な地域活性化の策を学び、地域の経済発展に貢献できるような力を身につけたいと考えています。私がまだまだ知らない知識や、社会で働いている人の違った視点など、多くのことを吸収できる貴重な経験になっていると感じます。

「おもしろき こともなき世を おもしろく」

これは、江戸幕末に活躍した長州藩士である高杉晋作が残した言葉です。この言葉には「おもしろくない世の中をおもしろいと感じるかどうかは、己の心持次第である。」という意味が込められており、今の私の指針になっています。この言葉に出会ってからは、上手くいかない時や迷っている時、辛いと感じるのか未来は明るいと感じえるのか、同じ事象でも捉え方次第で気



持ちが変わるなら、自分がおもしろい・楽しい
と思えるような人生にしようと思えるようにな
りました。自分で自分の人生をおもしろく・楽
しくすることができれば、それは周りにも広が
って、みんなに良い影響を与えることができる
と私は考えます。

私が興味を持てるものを見つけられるきっかけを
くれたふるさとである鳴門を、今度は私が、よ
りおもしろい！と思える街にしたい。次なる目
標は、今の私をつくってくれたふるさとに恩返
しをすることです。周りの人と環境に感謝し、
自分の人生をよりおもしろく、そして実りある
ものにしながら、これからも成長していける自
分でありたいです。